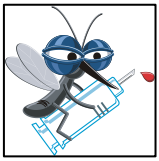
今月のグレース
Monthly Grace

虫刺されと蚊刺過敏症(ぶんしかびんしょう)

台風８号は、台風による影響に対して初めて大雨特別警報が発表され、数十年に一度の大雨となっています。台風のニュースが多くなると夏がやってきたと実感します。この時期、玄関の前でカバンの中の鍵を探し、もたもたしているとやってくる“蚊”。他に気を取られていると、あっという間に刺されてしまいます。“蚊”は、吸血の際に唾液腺の物質を皮膚に注入するのでそれに対してアレルギー反応をおこします。

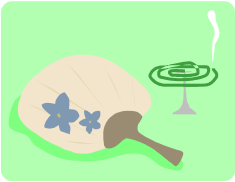


皮膚の症状： 主に２種類の症状があります。**①即時型反応**：刺されてすぐかゆみが出てきて、プクッとふくれ、１～２時間でよくなります。　**②遅延型反応**：刺された翌日から症状が出てきて、かゆみを伴い、赤くなり、時に水疱になります。

年齢別症状：年齢別に症状が違います。新生児(無反応)、乳児～幼児(遅延型反応のみ)、幼児～青年(即時型反応と遅延型反応)、青年～壮年(即時型反応のみ)、老年(無反応)。ただし、これらの症状は刺される頻度によります。頻回に刺された方は早い時期に無反応になるようです。

蚊刺症と血液型：いままでの研究でO>B>AB>Aという報告があるようですが、実際には科学的根拠がないようです。

治療：かゆみが強い場合はステロイド外用剤、抗アレルギー剤の内服を行います。水たまりが蚊の発生源になるので注意が必要です。虫よけや蚊取りを使用し肌の露出を避けるなどの対策も予防になります。



蚊刺過敏症(ぶんしかびんしょう)：蚊に刺されると時に水疱になることがあります。ただ水疱になるだけなら蚊に刺された遅延型反応になりますが、まれに蚊刺過敏症、蚊アレルギーとも呼ばれる症状の場合があります。小児に多く、蚊に刺された後に高熱、リンパ節腫脹、潰瘍(かいよう：深い傷のように凹む)、瘢痕(はんこん：痕になる)といった症状を伴います。この症状の場合は、大学病院などでの検査が必要になることがあります。　参考文献：虫と皮膚炎、秀潤社